

第1回藤島地域振興懇談会(会議概要)

- 日 時 令和6年8月21日(水) 18:00～20:15
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員 13名:石川 由美子、池田 玲子、大沼 富美雄、神林 守、近藤 直志、
今野 良和、齋藤 金廣、佐藤 智信、高山 千代子、中田 由香、疋田 勝幸、
星川 洋平、萬年 義憲
- 欠席委員 1名:齋藤 直美
- 市側出席職員
- 〈鶴岡市〉 市長 皆川 治
- 〈企画部〉 地域振興課長 菅原 青、地域振興課地域振興主査 渡部 久美子
- 〈藤島庁舎〉 支所長 成田 譲、総務企画課長 小林 雅人、市民福祉課長 出村 真一、
産業建設課長兼エコタウン室長 上林 喜博、
総務企画課課長補佐 後藤 春雄
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤 優
総務企画課主査 村田 喜栄
総務企画課総務企画専門員 菅原 篤
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 酒井 孝
- 傍聴者 2 名
- 次 第
1. 開 会 小林 雅人 総務企画課長
 2. あいさつ 萬年 義憲 藤島地域振興懇談会会長
皆川 治 鶴岡市長
 3. 報 告
 - (1) 令和6年7月25日・26日の大雨災害について 報告資料1
 - (2) 令和5年度第4回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料2
 4. 説 明・協 議
 - (1) 藤島地域主要事業及びまちづくり未来事業について 資料1-1 資料1-2
 - (2) その他

○次 第

1. 開 会 （小林 雅人 総務企画課長）
2. あいさつ（萬年 義憲 藤島地域振興懇談会会長）
（皆川 治 鶴岡市長）

■萬年会長

本日はお忙しい中第 1 回藤島地域振興懇談会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。

また、鶴岡市長様、教育委員会の永壽様、庄内農業高校校長先生の酒井様には、本当にお忙しい公務中ご出席いただきまして感謝申し上げます。

今日は藤島地域の主要な事業、特にまちづくり未来事業についてこれまでの取り組みや現在の状況、今後につきましてご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いをいたします。

藤島地域では中学校の改築を契機とした文厚エリアの整備、来年 3 月での庄内交通鶴岡清川線のバス路線の廃止を控えまして、地域公共交通の再編、それから 7 月 25 日に大雨災害を受けたばかりの防災に関する事など、課題のほか、長期的に考えますと、人口減少対策など重要な課題があるかと思います。

人口減少の対策については県においても、第 4 次総合政策総合発展計画の策定において、人口減少対策を最重要課題としていく方向性が示されております。鶴岡市でも、これまで以上に人口減少対策に力を入れていただけたらと思っておりますけども、藤島地域としても何かできることはないかということで、考えていく必要があるのではないかと、個人的には考えております。

委員の皆様からは、是非とも忌憚のないご意見を頂戴し、藤島地域の今後に向けまして、有意義な懇談会の場になりますよう、よろしくお願いをいたしまして、挨拶とします。

●皆川市長

今日は萬年会長さん、高山副会長さんを始め、藤島地域振興懇談会の委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

8 月の藤島の夏祭り、佐藤智信会長さん、実行委員長さんはじめ、大変お疲れさまでございました。伝統芸能祭を含めて、大変素晴らしい行事だったと思います。若い人たちも、楽しめるライブイベントとか、本当に工夫をされてるなと感じたところです。

これから庄農うどんもスタートするということでありますし、また先日、ちょうど大雨の後の夏祭りの時、名寄の皆さんも藤島を訪れておりました。私も今週土曜日から名寄市に初めて行きまして、あちらの産業まつりに参加させていただくこととしております。

今日は庁舎の方から後で説明があると思います。前から私、できるだけこの地域振興懇談会は行きますと言っていたんですが、なかなかお声がかからず。私が忙しいと配慮していただいていたのかあれなんです、すごく重要な委員会だと思っております。

馬場町に本庁舎がありまして、この鶴岡市は 6 市町村が広域合併してますので、この藤

島にも庁舎があって、連携・役割分担を図って市政を展開しているんですけれども、何かこう、物理的な距離があるのか、役所の縦割りみたいなのところがあって、本庁舎でやっていることとこの地域庁舎でやっていることが、十分濃く意思疎通ができていて住民の皆様の期待にこたえられてるのかという、いろんな課題があると思います。

私は本庁舎と地域庁舎、そういう垣根をとっぱらって、庁舎の皆さんもすぐ、これは財政課が認めてくれないから予算がないんだとかそういうんじゃなくて、まずどういう課題があるのかってことをしっかり受けとめて、できるかどうか、予算があるのかどうかそれはその後の話でありまして、まず地域の皆様の課題をしっかり受けとめるというのが大事だと思っています。

特にこういう懇談会は重要でありまして、市役所がいろいろ音頭を取ってやることもあるわけですが、お祭りをはじめ住民の皆様の活動、或いはこの地域にある高校の役割が非常に重要です。やっぱり住民が主役で、それを後押しするのが市役所の仕事ですので、そのことを忘れずに仕事をしなければいけないと思っています。

特にこの藤島地域は、中学校改築を控えておりまして、また小学校の学校改築、その際どうするのかというようなことも、議論も積み重ねられてきておりますので、当然その際の武道館とか学童とか、文厚エリアの整備も計画的に進めていかなければいけないということがあります。

非常に重要な時期でありますので、学校のことについては別途整備委員会の方が中心に議論はなされるわけでありまして、ぜひこのまちづくりに必要なことをですね、遠慮なくいろいろ発言していただければと思います。

また 7 月 25 日の大雨で、特に藤島地域に被害が出ました。床上浸水が市全体で 14 棟の中で、藤島が 9 棟ということでありまして、床下浸水もやはり藤島に非常に多かったということでもあります。

今日午前中に農作物の被害状況も確認しましたが、藤島は、稲作のお米、それから大豆、この農地の冠水浸水も多かったということであり、こうした災害の復旧、また農作物被害の状況をしっかり把握して、営農継続につなげていくということも別の会議でありますけれども、取り組んでいくこととしております。

藤島地域の住民の皆様の意見を聞いて反映していく重要な会議であります。私行きますということを言って、できるだけ各地域のお話を伺おうに思っておりまして、藤島地域の地域振興懇談会には今後もできるだけ伺いたいと思っておりますし、皆様から出された意見を実現できるように、最大限努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○懇談会経過

3. 報告

- (1) 令和6年7月 25 日・26 日の大雨災害について 報告資料1
 - (2) 令和5年度第4回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料2
- 一括で報告

■成田支所長

(1) 令和6年7月25日・26日の大雨災害について 報告資料1

8月16日までの被害概要と、各種支援制度について、鶴岡市全体では床上浸水14戸、床下浸水95戸。市道・河川89箇所、農地91箇所、林道93箇所、農業施設188箇所など、9億弱の被害が確認された。

藤島地域では、床上浸水9戸、床下浸水79戸、市道7箇所、農地22箇所、林道8箇所、農業施設52箇所等の被害となっている。

市では、発災時の緊急対応としての、代替住宅の手当てや消毒、被災ごみ・河川ごみ等の処分について大方終了し、被災世帯の調査も概ね完了した。現在、罹災証明発行や各種支援制度の説明、申請受付などの業務に移行している状態で、住宅関連及び事業支援、農地・農業施設、市道、河川、公園関係などの緊急復旧対策として3億7300万の補正予算で対応。

主な支援制度

・住宅の支援制度(窓口:市建築課)

災害救助法による応急修理事業

大雨浸水家屋修繕等支援事業。(床下浸水にも対応可)

生活家電補助事業 ④住宅リフォーム支援事業

・農業関連支援の見込(県との共同体制)

詳細は未決定だが、7月の長雨や今般の大雨災害で緊急追加した農業肥料や捕食用飼料の購入費、ハウスや果樹棚の修繕費、農業機械の修繕・再取得費用などを対象として、8月30日まで需要量の調査を実施している(JAの広報等でも周知)。

・商工関係の災害復旧支援事業

頑張る中小企業応援事業の補助金を活用:被災した機械設備や事業所の修繕・改修費用を対象。費用の2分の1を支援予定で、商工関係団体を通じ情報収集中

■小林総務企画課長

(2) 令和5年度第4回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料2

A:避難所の非常電源の確保のために、発電機をもっと造成すべきではないか

Q:回答:藤島地域の避難所は13施設で、各施設には照明設備=投光器用と電源用として1ないし2台の非常用電源発電機を設置している。

国の指針では、避難所に照明設備・非常用発電機を備えることを定めている。これに基づき、市では照明設備の電源としての非常用発電機を確保しているため、発電機の増設は考えていないが、国の指針が変わるなどの状況に応じて検討・対応したいと考えている。また、支援物資や備蓄倉庫、他の避難所からの備品、防災備品の運搬体制を確保しており、被災が局地的な場合には他地域から搬入するなどして臨機応変に対応する。

A:各地区地域活動センターの電話回線は地震時等に切断する可能性が高く、非常時のやりとりができないのでは? その対策は。

Q:移動系の防災行政無線の設備を活用して対応する。藤島地域では、地域活動センター5ヶ所と藤島体育館及び藤島農村環境改善センターの計7ヶ所に移動系の防災行政無線

を常備している。電話回線が切断した場合には、この防災無線を使い、庁舎とそれぞれの施設間、また本所間との連絡をとることができる。

●委員

Q1:報告資料2の回答の中に、支援物資や備蓄倉庫、他の避難所からの防災備品の運搬体制も確保しているとある。運搬体制はどのようなものか？

Q2:私はトラック協会の理事も務めている。県トラック協会では災害支援協定を結んでいると思うが、鶴岡市でもトラック協会と協定を結ばせてもらえれば、我々もすぐに動ける体制をとれると思う。物流費高騰の中、市から多くの支援を受けているので、しっかりと返させてもらいたいと思っている。

■小林総務企画課長

A1:運搬体制は、市の公用車を用いて運搬する前提で考えている。

●委員

Q2:トラック協会との協定も、ぜひご検討いただきたい。

■皆川市長

A2:(協定を)ぜひ結びましょう。非常事態が起きた時、防災対策の備えが出来ていない部分が非常に多いということを痛感している。令和元年の山形県沖地震、令和2年の7月豪雨、今回の豪雨と毎度ドタバタで、災害が起きた時に何とかしようというレベルにとどまっているのが実態だと思います。

行政だけで出来ないことも考えられるわけですから、ある程度の想定を持って、トラック協会さんのお世話になることを考えるのは非常に重要なことだと思います。

担当は防災安全課ですので、持ち帰ってしっかり検討し、また協議をさせていただきたいと思います。

●委員

Q:今回の災害で駅前町内会の避難所には8名が避難しました。避難者の中に、一人暮らしの高齢者の方がおりました。この方は最近要介護認定された方だと思います。ケアマネージャーの指示を受けたデイサービスの担当職員が車で送ってきましたが、報告書も書けない状態の方で対応をどうすればいいか、関連死の問題もあるために不安に思っているわけです。

解決のため、市の防災計画の避難所運営の中にもあるとおり、保健師の巡回や相談窓口の体制を迅速に取ってほしいと思いました。保健師からケアが必要ですか、ここでは無理ですとかを具体的に判断していただきながら、対応していきたいと思っております。

■皆川市長

A:その点は非常に重要です。鶴岡市でも西目の土砂災害が起きたとき、地区公民館からホテルに移ってもらい、その後市営住宅に入っていました。要支援者や妊婦さんなどの方々は、避難所で何日も過ごさせるべきでないと思いますし、福祉避難所という考え方もあるんです。健康福祉部もそういう問題意識は持っているので地域庁舎とシステムチックに対処して、そういう方についてはいち早く、より過ごしやすい場所に移ってもらうことが必要だと思います。

個別避難計画の作成が義務づけられていて、1万人ぐらいの計画を作成する必要があるんですが、まだほとんど進んでいません。健康福祉部では、透析が必要な方とかは命の問題に直結するので医療的なケアが必要な方から進めていますが、要介護度の高い方まで行き着いていない実態もあり、個別避難計画の策定もまだまだということなのです。

ただ、局地的に発生した水害の場合に、いち早く安心できる避難場所へ移動することについて、健康福祉部と防災安全課にもう一度持ち帰って、地域庁舎の皆さんとも協力して、次はもう少し皆さんを不安にさせないことをできるように考えていきたいと思っています。

●委員

Q:移動系の防災行政無線は、庁舎と各避難所のやり取りだけでしか使えないわけです。渡前地区での防災体制で考えると、各町内会の被害状況については、避難所＝活動センターに、町内会長から情報が入る形でお願いしておりますが、避難所の電話回線が使えない状態では、庁舎の職員が活動センターにいても被害状況の把握ができない形になってしまいます。そうすると、避難所と庁舎等のやり取りをしても実態がわからないままでのやりとりしかできない状況になってしまいます。

避難所の電話回線は光ケーブルで、災害に弱い回線しか確保されていないが、業者の話では災害にも強い、アナログで接続して電話回線につなげる設備を残している施設もあるということでした。災害時にアナログで対応できる回線の整備、あるいは各町内会と活動センターがやりとりできる防災無線が整備されれば、各町内会の被害状況等も把握できると考えていますがいかがでしょうか。

■小林総務企画課長

A:各避難所に緊急時に使えるアナログ回線を設置することについては、庁舎の方でも把握していなかったもので、防災安全課に全市的な避難所での設置状況も確認し、本所と情報共有しながら検討させていただければと思います。

地域活動センターと町内会の防災無線でのやり取りについては、庁舎が町内会に連絡を取りながら情報収集し、自治振興会の方に無線でお伝えするとかの工夫をして対応していきたいと思っています。

●委員

自治振興会によっては、宝くじ助成等を活用して行っていると聞きました。渡前でも要望を出していますが、無線等の整備の要望を強く宝くじ助成の方に働きかけて考えていただ

ければ大変ありがたいと思いますので、併せてよろしくお願いできればと思います。

■皆川市長

(防災無線は、)地域活動センターと庁舎は結ばれていますよね。あと、地域活動センターと防災安全課も結ばれているという説明でしたがご存知ですか？

●委員

防災安全課と直接出来るかはわかりません。

■皆川市長

その辺が多分、周知されていないのではと思うんです。私がこの間、防災安全課長に聞いたら、地域活動センターと防災安全課も結ばれているということでしたが本当ですか。

●菅原総務企画専門員

画像伝送システムを使って、防災安全課から活動センターに情報を送ることはできますが、活動センターから防災安全課に直に送ることは出来ません。

■皆川市長

それはあまり正しい説明ではなかったですね。

委員からお話があったことは、防災安全課としっかり検討して、非常時においてどういう情報のやりとりがなされるのか、どうあるべきかという視点でしっかり考え、しっかり検討していきます。

●委員

洪水や大雨になると、東栄地区、三和地区、それから藤島川の方の柳久瀬地区、長沼温泉地区、この四つが必ず最初に報道されると思います。40 年以上前から同じような状況が続いていて、藤島の河川に関しては、ずっと後回しになっていると思っています。

地震や雷など、どこに来るかわからないものであれば仕方のないことですが、川の氾濫に関しては場所が限定されているのに、いつまでこの状態で放置されるのか。藤島の人間は、いつも大雨が来るたびにドキドキしながら過ごしていて、この状況を何とか改善して欲しいと思っています。要望に近いですがよろしくお願いいたします。

■皆川市長

京田川と藤島川は水位の上昇や氾濫で、住民の皆様が非常に怖い思いをしている。

京田川の、京田橋から下流側は平成 13 年頃までに河川改修を終えていて、現在は京田橋のあたりを改修しています。河川改修は過去の雨のデータに基づいて、30～40 ミリの雨が 3～4 時間の流下能力の設計らしいです。今回降った雨は、時間当たり 40 ミリぐらいで数時間続き、1 日で 200 ミリを超える雨が降った。鶴岡市は年間 2,000 ミリの雨で

すが1日で200ミリ、年間の10分の1ということで、降り方が変わっている。

県管理の河川なので、吉村知事が来たときに話をしましたが、非常に大きな予算と対策費がかかる話だと思いますけれども、もっと流下能力を上げていくことを考えていかなきゃいけないと思います。知事がその時におっしゃっていたのは、最上川自体の水位も上がったりするからその対策も考えないと、結局流れていく最後のところで水位が上がると支流の水が流れていかないことになるということでした。いずれにせよ、非常に下流側にあり、河川が合流するような地点でありますので、住民の安全確保のために、今後国や県としっかり連携してさらなる対策を打つ必要があると思っております。

●委員

中町には庄内農業高校の頑丈な建物があります。町内会自主防災組織の研修会の中で、万が一のとき庄農に避難できないかという質問がありました。基本的には市の施設に避難しますが、避難せざるをえない場合、県の施設を利用させてもらうことを事前に考えておかないと駄目だと思います。最近の災害は想定以上の規模で来るので、今後、県の施設の避難所についてどう考えていくのか。

■皆川市長

県教委との関係で、例えば鶴岡高等養護学校に避難させて欲しい、特に発達障害がある方とかでそこに通っている方は避難させて欲しいという声があるんですけども、協議しているうちにうやむやになってしまうというのがあります。

必要性をよく考えて、特に校長先生が理解ある学校では打開していく余地があるんじゃないかと思います。現に鶴岡北高には第三学区の避難所を開設しています。

■成田支所長

庄農は断層の上に乗っていて、藤島川に直面している施設でもあります。川の東岸には活動センター・体育館・小中学校など、市施設で避難できる建物があるので、危険度の高い施設でなくて市の施設を活用するということで整理しています。

●委員

大規模な災害が起きた場合に、活動センターよりも耐震化が進んだ庄農の方が丈夫なことを考えると、避難所利用について県との話し合いは大事なことです。

■成田支所長

県との調整が必要になりますので、検討します。

■皆川市長

災害が頻発するようになり、これまでは河川の水位が上がっても避難勧告にはならなかった。近年は河川の水位が上がり、地震があり、いろんな形で避難指示を出すようになって

いる。住民はどこが一番安全な避難所なのかを知りたいし、行政は何十年も前に設定した避難所がそのままというところもあるので、現実的に命を守るためにどこが最適なのかということをもう一度考えていく必要があると思います。

災害の種類によっては、浸水想定区域内にあるために避難所に適さない建物もあります。赤川が氾濫した場合、朝陽五小は浸水想定区域にあり、緊急時の垂直避難は出来ませんが長期避難が出来る建物ではなく、そういうところは二次避難所にはしていません。

浸水、河川氾濫、地震の場合に、どこが避難所として使えるかということをもう一度自主防災組織の皆さんとともに真剣に考えて、その議論は庁舎がリードするしかないと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

■酒井庄内農業高等学校校長

2年前、置賜農業高校教頭として赴任していた当時、川西町との防災協定で高校が避難所になっていました。豪雨で置賜農業の隣の川が氾濫して陸の孤島となり、避難所の開設をしないことになりました。そこに地域の方が20名ほど避難してきたので、本校の職員2人で対応し、ありあわせの食料や飲み物で対応しました。

高校も県民の施設ですし、緊急時にはそういったことも可能だと思いますので、後で連絡を取り合っていただければと思います。

●委員

JA たがわで農地受託組合に依頼し大豆を作付けしていますが、この間の災害で東堀越の農道の法面が崩れて収穫に行けない状況です。市で復旧するということですが、その水利は土の水利なので、大雨になれば復旧してもまた崩れると思います。U字溝の設置や、農地の侵入口の補強ができないか、また、制度や助成があれば教えていただきたい。

■皆川市長

個別の事案を市で復旧するのだけれども、現状復旧でなく機能強化を図れないかという話だと思います。基本的には現状復旧になると思いますが、現状復旧しただけで、またすぐ災害にやられてしまうのはよくありません。状況をよく調べて委員に回答しますし、担当の方がおられればその方と調整いたします。

説明協議

4. 説明・協議

- (1) 藤島地域主要事業及びまちづくり未来事業について 資料1-1 資料1-2
 - (2) その他
- 一括で報告

●委員

私は藤島の真ん中の中町に住んでいます。近年、若い人たちが家を建てて、相当数の方が

新しく町内会の会員となっています。話を聞くと、藤島は便利のいいところだ、鶴岡に行くにも酒田に行くにもちょうど途中で勤めに行く条件が良い、そして駅があるということで、非常に若い人たちは魅力を感じているんです。また、いろいろな考え方があると思いますけれども、若い人は、今度小・中学校が一緒になり小中一貫の新しい学校ができるということに魅力を感じて、藤島に来るといふ不動産屋さんのお話を聞きました。

藤島がどのようなまちづくり、教育環境の整備をしていくかということは、これから 30 年、50 年先のことを考えていくと、非常に重要で大切な問題だと思いますし、またそれと同時に文厚エリアをどのようにして整備・開発していくかを同時進行で考えていかなければいけないと思います。内部で、文厚エリアの基本的な考え方をまとめていくということですが、どのように進めていく考えなのか。

小中一貫校の考え方は、反対や賛成といういろんな声があることは承知しておりますけれども、学校教育の或いは学校施設のモデルとして、藤島にそういう学校ができるということはチャンスであって、これが藤島の新たな魅力に繋がり、或いは若い人たちが藤島に住んでみたいという一つのきっかけになるのではないかと考えています。

今後の取り組みについて、庁舎並びに市の考え方を聞かせていただきたいなと思います。

■永寿教育部長

この地域振興懇談会をきっかけに、中学校の改築にあたり藤島地域の小学校、中学校をどうしていくかということで、教育振興会議において 2 年に渡る議論をいただき、藤島中学校の早期の改築あるいは小中施設一体型の小中一貫校等の提言をいただきまして今検討を進めているところです。この提言と、これまでの議論の積み重ねを踏まえ、これからさらに検討を進めていく中では、地域の皆様がどのようなことを考えているかを踏まえ、教育委員会として決定したいと思っています。

中学校だけの改築なのか、その先に小学校の改築も考えていくのかについては、皆様のご意見をお聞きしながら、意見を取りまとめてやっていきたいと思っています。その先に、例えば藤島小学校と中学校が、仮に施設一体型でいきましたとなったときに、まさにこの隣接した地域の土地利用をうまく考え何ができるのか、またそうでなくても、例えば、中学校改築するに当たって、中学校に武道場、剣道・柔道ができる場所も作るというのは、これまでの中学校でもそうなってる中で、剣道が盛んな藤島においては、例えば、住民の方々から利用いただくような武道場と一緒に整備したらいいんじゃないか。或いは、間もなく二期から供用開始する朝陽第五小学校は学校と学童を一体的に整備してまして、このたびの教育委員会施設についても皆様方の意見を聞いて、様々な地域のニーズに合った施設にしていく、利用ができるようにしていきたいと思っています。

我々としては、教育振興会議の提言を受けまして、住民の皆様の考えをお聞きして判断していくということですが、先の検討委員会でも示したように、まず、学校をどうするのか、そしてその先の検討を見据えながら、今進めている状況です。

■成田支所長

学校整備は、永寿部長からお話があったとおりです。慎重に丁寧に学校の議論が進められている中で、庁舎は児童館並びに武道場の整備について、関係課と協議を深めているところです。おおよその方針、これは役所の中の方針ですけども、こちらの方は見合わせがほぼ済んでいるのですが、庁舎の役割として大事な、利用者等の意見や関係団体等との調整が捗っていない部分もあります。

教育委員会の施設整備に迷惑をかけない形でぜひ、そちらの方に地域の意向などを吸い上げて形にしていく工夫をしていきたいと考えています。

■皆川鶴岡市長

ご指摘のとおり、中学校改築に小学校の改築ということで合わせて進めていく。そして、その関連の施設を合わせて整備をしていくと、まちの魅力が高まっていくことになります。

鶴岡のまちづくりは、中心市街地と旧町村ともに発展して行くことを目指し取り組んでいまして、都市計画上也中心市街地だけでなく、地域の拠点も大事にしていくコンパクトプラスネットワークで、中心市街地の拠点と旧町村の拠点づくりを同時に進めていくことになっています。その意味では藤島の学校改築に合わせたまちづくりの取り組みが、この度行われることになりますので、まちの魅力が高まってそこに住みたいという方が増えて、民間の投資も誘発されることになって、中心市街地とこの藤島地域が良好な関係で発展することになっていくと思います。

学校整備は今、整備検討委員会での検討も進んでいます。鶴岡市の中心市街地はお城があったエリアを中心とした素晴らしい景観、古い建物と新しい建物が融合したエリアなわけですけども、この藤島地域には国の指定史跡になっている郡役所、郡会議事堂もあり、加えてそこに新しい中学校、小学校と関連施設の整備ということで、非常に魅力的なエリアになってくるということであります。まちづくりの都市計画、市総合計画全体を考えて、この旧町村のまちづくりの一つのモデルになっていくものですので、教育委員会と藤島庁舎とでしっかり取り組んでいきたいと思っています。

●委員

合併しなかった三川町と旧藤島町とをよく比較されます。

三川町は単独で自由にやれる環境ですし、合併した藤島は単独で考え方を進めることができない状況にあると思います。例えば、これを機会にして、藤島で若い人たちが住めるような新たな住宅団地を作りたいとなった場合にはハードルが高いというのが現状だと思います。それは垣根を越えて、藤島の地域でそのような考え方があるとすれば良いということにならないと、全体のことを考えると藤島だけ特別扱いができないという状況になりかねないので、その辺の考え方を少し改めていただきたい。地域の考え方、振興計画などをより大事にして、鶴岡市全体のまちづくりをしていただきたいと考えており、ぜひそういう方向で取り組んでいただければと思います。

●皆川市長

市町村合併というのも住民や市役所の職員のマインドに大きな影響を与えてきたと思います。財政の構造改革というか、財政支出を減らしていこうという背景がありまして、合併時に合併特例債等の一時的なメリットはあるわけですが、その先どうなるかわからないこともあって、特に旧町村への投資を縮小しようという傾向があったのは間違いないと思います。中心市街地への投資は重要なことですが、過度に旧町村の投資を抑制していくことはコンパクトプラスネットワークのまちづくりからも矛盾があります。ですから旧町村の投資を抑制的にするという考え方を脱却しますと、もっともっと鶴岡は、中心市街地と藤島、羽黒、櫛引、温海、朝日の旧町村の魅力も生かしたまちづくりができるということです。住まいのお話もありましたけれども、これはその住宅が売れるかどうか最も重要になってきていて、鶴岡の中心市街地でもマンションが建ったり、計画はあったけども金融機関がついてこなくて計画が頓挫してしまったりいろいろあります。

新しいまちづくりをする中で、魅力的な学校と周辺設備ができますと、住宅への投資というようなことも当然起きてくると思います。私はそういう抑制的な、投資をしない考え方ではありませんので、住宅が売れていくことがあって、民間の皆様の動きも大いに期待をして、まちづくりを進めていきたいと思っております。

●委員

夏休みの間、藤島の子どもたちが「行く場所がない」と言っていました。例えば、東田川文化記念館の図書室に勉強しに行ったら、ちょっと話をしただけで「うるさい。」と言われて追い返されたそうです。変わりにどこに行くのかとなると、どこにも行き場が無い。昔の子どもたちは、プールに行って夏休みを過ごしていましたが、今はそれも無い。例えば、お母さんたちが勤めてる子どもは学童に行けて、おばあちゃんのいる家は行けないということはあるのでしょうか。おばあちゃんがいる家庭の方から言われたのですが、おばあちゃんが夏休み中ずっと子ども3人見ていないといけない、そうすると1週間に1回でもどこか行けるところがあれば気持ちが救われるんだと思うんです。子どもたちが過ごせるところ、暑いから涼しいところで勉強したいとか、家にいると兄弟がいっぱいでワチャワチャして勉強出来ないとかもあります。

図書館が、東田川文化記念館がだんだん立派になっていって入りづらくなっている感覚がありますので、その図書館みたいなのを別に作っていただけたら良いと思います。

■皆川市長

子供たちの遊ぶ場所や居場所を用意するのは大変重要なことです。私自身は田んぼしかないようなところで生まれ育って、釣りに行ったり、スキーに行ったり、虫を捕まえたりして過ごしてきたので、そんなに都市的な環境を求めたことは無いんです。しかしそれは、そういうのを好む人の話であって、一般的に言うと過ごせる場所が無いというのは当然あるわけで、子供たちが放課後に過ごせる場所、それから、休みでも気軽に行って過ごせる場所が必要なのだと思います。

ですから、中学校、小学校の整備とあわせて、そういった場所をどの程度できていくのか。

剣道をしている人たちには武道館のことがあるんでしょうし、放課後児童クラブも誰だったら使えないのか、その辺のことのデザインだと思います。地域の皆様が望むデザインで、放課後を過ごせる場所を作っていくということだと思いますので、これから、放課後児童クラブ自体は健康福祉部と藤島庁舎とで、地域住民の皆様のニーズを踏まえてやっていくということだと思います。

それから従来、地域に開かれた学校とは言いながらも、学校と施設は一定程度分けられていた部分もありますけれども、今の東田川文化記念館にある図書室がそのままでいいとはちょっと思いませんので、その関係をどうするのかということも、当然、議論に入ってくると思います。今、図書館の本館整備の議論をしていて、本館を非常に魅力的なものにしようと思っていますが、地域の身近な分館、また、その学校の図書室との関係の整理というようなこともあります。子供たちの居場所がもっと増えるように、この文厚エリア整備の中でしっかり検討していきたいと思っています。

●委員

外気温がこういう状態なので子供たちも遊べないんです。外に行って遊んでこいと言っても暑くてだめという感じです。市長が若かりし頃は涼しかったんです。今はとてもでないですが外では遊べない状態ですので、そのあたりも加味していただけたらと思います。

●委員

私は懇談会の委員になり 5 年目になります。1 回目からずっと渡前の体育館のことで話をしてきました。先の市長選挙のときに公約で、重点項目の 5 番目に栄と渡前の多目的施設ということでした。資料に文厚エリアの検討事業がありますが、市長が公約で掲げた旧渡前中学校の体育館のせめて名前ぐらいはここに挙げておかないと、検討の余地も無く、その他に入ってしまうのではないかと。

もう一つ、鶴岡市の政策には農業政策がすごく多いです。講習会や勉強会を市でやっていますが、商工業者は電動工具のインパクト一つ使うにも講習会を受けなければならないし、丸鋸一つ使うにも講習会に試験で、いろんな資格があるんですけれども、今は個人でお金出せと言えないのです。全部、会社で負担して資格を取らせるんですが、以前、藤島町に、資格取得や、安全大会に講師を呼ぶ費用の助成で、1 社上限 20 万のスキルアップ資金があり、うちの会社でも 1 級技能士や 2 級建築士の資格を取らせることができたんです。

今、がんばる企業応援資金というのがありますが、資格取得などに使って大丈夫なのかを聞きたいです。

■皆川市長

渡前には、地域活動センター、旧渡前中の非常に老朽化した体育館、小学校とあります。

今、藤島中の改築、小学校のあり方を検討していて、中学校周辺の辺りの議論が中心になっていますが、藤島小、渡前小、東栄小の位置付けについても検討し、地域への説明会も行われます。その際には私の市長公約でもありますので、渡前の施設整備のあり方というこ

とについても、藤島庁舎とともに検討していきたいと思います。

スキルアップのための支援について、がんばる中小企業応援の方には該当するメニューがないかもしれない。私は地域まちづくり未来事業とかで、頑張って検討したらいいと思います。農業支援は力を入れていても、商工支援が弱いというのであれば、藤島には出羽商工会の本所もありましたし、商工の伝統的な基盤がある商店街もあるわけなので、何かのスキルアップを目指すことに対しての助成制度の仕組みをつくるのは、そんなに難しい話じゃないんじゃないかと思います。

旧町村に投資しようとする、投資するなというブレーキがかかってきた中で仕事をせざるをえなかったってところがあります。全部、旧鶴岡市方式に従うやり方では、何のために合併したんだということになりますので、地域の特色を生かすため前向きにやろうとすることを、どういう仕組みで応援するのかを持ち帰って検討させていただきたいと思います。

■成田支所長

がんばる中小企業で、そういったことに使えるかどうかは、商工の方に確認して、委員に連絡させていただきます。

産業建設課長から、今年度の観光拠点の魅力アップ事業の説明をさせていただきました。これは商工会や観光協会の方からもいろいろな事業提案を受けて、来年度に向けて役所と一緒に取り組む事業にしていきたいと考えています。予算要求までの間に、商店の人たちがいろいろな取り組みをして、例えばイルミネーション、あるいは国史跡を使って、店の売り上げを伸ばしていくかを一緒に取り組んでいきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

●委員

日本の最大の課題は少子高齢化であろうと思います。この資料にも藤島地域の年間人口減少率が1.9%と書いてあり、すごい勢いで人口が減っています。これは子供の出生数が足りないところが一番なのかなと思います。

子供が産みやすい状況をいかに作るかというところで、日本全国が一生懸命動いていても難しいと思うんです。今までは結婚して子供を産みなさいと、その前段階で結婚するための部分にお金を割いて、国だったら若者に対する減税、我々が商工会の青年部時代にはカップリングパーティーをやりいかに結婚させるか、そして子供を増やすかということを考えていたんですけども、結婚する気がない人にいろんな事業をやっても難しいんです。けれども実際に結婚して子供を産みたいと言う人は必ずいるわけで、その人にいかにメリットのある施策を打ち出せるかが問題だと思います。

子供を産むという人はなかなかいないんですが、当面の生活費があれば産むという人もいるんじゃないか。10万20万ではちょっと足りないと思っていて、100万ぐらいは欲しいんじゃないかなと思うんです。今、鶴岡市は600人×100万で実質6億ぐらいの話なんで、そんなに絵空事の話ではないと思います。これは国にやってほしい話ですが、鶴岡市

が先駆けてやれば、多少なりとも増える部分があるんじゃないかと思っています。減税や、産んでから何か物をあげるのでは難しいです。生活費として、現金 100 万ぐらい支給すればいいんじゃないかと思っています。

■皆川市長

先日、人口戦略会議が、若年女性人口が 50%以上減少する自治体を消滅可能性自治体として発表しました。鶴岡市は今回 51.1%減少で、前回より改善はしたんですが 50%を切ることができず脱却できなかった。

少子化対策のいろんな手法がある中で、市長に就任してから、医療費を高校生まで無償化、学校給食費の無償化をやりました。それは子育て世代の負担軽減策として一定の効果があると思うんです。けれどもおっしゃるとおり、結婚に至って子供を産むところの抜本的な施策まで行っていないし、そのことを指摘する識者の方がいることも承知しています。子育て世代の負担軽減ではなくて、日本においては結婚して子供を産むという流れがありますので、その対策が有効に機能していないことが指摘されています。

その手だてとしてご提案がいろいろございましたけれども、非常に直言のご意見だと思います。財源確保ができるのであればやはり、有効な対策をもう一段考えていかなければと思います。

鶴岡市は本当に魅力的な町、地方都市の中でも光っている町だと思いますし、伝統があって、また新しい分野の活動も行われていて、藤島地域もすごく面白い取り組みがなされていて、ここに閉じ込めておくのは勿体ない。ホームページなどでもっとわかりやすく魅力を出していかない限り、若い人たちは来てくれないと思います。魅力づくりをしっかりとやると共に、経済的なメリットをもうちょっと出せないのかということについても、貴重なご意見として承らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

●委員

親の覚悟が足りない。上の年代の人は、親が食べなくても育ててもらった年代だと思うのです。助成金をもらってでも 3 ナンバーの立派な車に乗っている、化粧はしてる、いい服は着ている。100 万を支給すればいいという問題ではないと思います。人間の価値観というか、子育てに対する親の考え方の教育が必要なのではないかと私は前々から思っています。

うちに最近、30 歳代の男性が 2 人来ましたが、どちらも結婚願望はありません。誰かいい人を紹介しようかと言っても、俺結婚しなくてもいい、そんな感じです。金を出せばいいという問題ではない気がします。

■皆川市長

今の点は両方ともご意見で、人のライフスタイルはその人がお決めになることであって、どうこうできるものではないということになるわけです。

昔の世代と若い世代の価値観がどう変わったのかは、なかなか難しい部分です。けれども結婚して、若いうちにお子さんを産むというのは、国の人口問題研究所のデータのにも

変わってないんです。結婚の数自体は減っていますが、子供を産まれる方は比較的若いときに結婚して、ある一定の年齢のところで産むことはそんなに変わってない。

ですから、結婚に踏み切れないいろんな要因があるのだと思います。非正規労働が増えて、家族を持つのが難しいとか、社会的な背景や経済的な理由があると思いますので、価値観を転換していくことはなかなか難しい。結婚するしないは自由の選択なので難しいわけです。少なくとも、経済的に結婚をためらうことがないような国づくり・社会づくりということが求められていて、国レベル、県や市町村レベルで取り組めることは何かっていうことはしっかり考えていかなければいけないことだと思います。

●委員

子供の安全面について、最近すごく暑い年が続いている中で、学校の教室へ空調設備の整備、昨年は可搬式空調の導入。今年は夏のスクールバスの運行など、子供たちの熱中症対策に対して感謝しています。今後も暑い日が続くので熱中症対策や、クマ、不審者など子供たちの登下校に関わるリスクへ対応をお願いしたい。

部活動の地域移行について、藤島地区では率先してモデル的に導入したが、指導者の協力のもとスムーズに移行できたと思っている。今年の中体連で剣道が全国大会に出場するなど、コーチの皆様のおかげで結果も出ている状況となっている。

一方で、生徒数の減少と部活加入の任意制によって、部活動の全体数が減ってきている。本気でやりたい人は市内のクラブに行く。みんなと楽しくやりたい人が続けづらくなっている関係で、藤島中学校だけのチームが組めず、他の中学校と合同になって、それならもうやめようとか、せっかく頑張っても負担が大きくなっているのが課題なのだと思う。あと、地域の方々、コーチの方々に対しても気持ちよく、そこに慣れるような引き続きのご支援などをお願いしたいと思っています。

小中一貫校の関係については、小中一貫校を導入することで、かつ文厚エリアの拡充などでとても魅力的に感じますので、ぜひ進めていただきたい。

保護者アンケートの結果を見ますと、不安からくる質問や、分からないから今のままでいい感じのご意見が多々あったと思います。やはり、小学校が一緒になる動揺、かつ中学校も一緒になってもっと動揺して、どうなるのみたいな感じの保護者が多いと思います。

今月初めに整備検討委員会が開催されて、これから地区ごとの説明も行われるということでしたので、保護者、地域の方々、主に保護者の方々を中心に説明をしていただければ、理解が広まって進んでいくことをとても期待しています。

■皆川市長

小中一貫の小中一貫教育、そして、藤島地域で義務教育学校を基本にして検討するという提言が出ているわけです。これは学校教育のあり方ですから、教育委員会で学校の先生方、またその地域の方々の声もよく聞いてまとめていくべきものです。

アンケートで地域の皆様がどういう学校か分からない、不安があるということだとすれば、このような学校になるんだというイメージを出して行って、魅力的な学校になるということ

になれば、それは誰もが賛成してくると思います。

委員がその方向性に賛成したように一定程度理解があるわけですが、良い学校ができるということが分かればさらに理解が広がっていくと思います。教育委員会で具体的な姿、武道館、学童、図書館はどんな感じになるかなどイメージを示しながら理解を得ていく作業をやっていくということでもありますので、ぜひ委員からも PTA の皆さんの理解が広がるようにお力添えいただければと思います。

暑い中、学校の環境も大変だということも、新校舎で大きく改善します。先日、朝陽五小の新校舎を見に行きました。本当に立派な校舎で、前の手狭な校舎からスペースも広がって、ここで学ぶ子供たちも本当にいいだろうなと思いました。

ホワイトボードという、ICT の環境も非常に充実しておりました。そういった姿をしっかりと示しながら議論を進めていくということが大事だと思いますのでよろしくお願いいたします。

●委員

この間の大雨の際には、学校から一斉下校の連絡が届いたおかげで、みんな安全に帰ることができました。鶴岡市内で働いている保護者は川の水位の状況が分からなかったもので、近くに行って初めて、子供たちだけで帰ったらとても危なかったということに気づきました。早急に対応をとっていただきありがとうございました。

部活動のことで、野球部なんかは、グラウンドに照明が無いんです。今の季節なら明るくて大丈夫ですが、秋になると保護者がライトをつけてグラウンドを照らし、練習している状況でした。グラウンドに照明があれば、もっと気の入った練習ができると思います。今は少人数なので、今後部員が増えた時にそういうふうにして、みんなが入りたいと思う活動をしていけたらと思います。

■皆川市長

藤島地域で部活動の地域移行をモデル的に取り組んでいただいて、一方で任意の参加になったので課題があることを、今改めてご指摘いただきました。教育行政の中の先生方の働き方改革と、大会出場を目指すスポーツや文化活動と共に、もう少し気軽に参加できるようなスポーツ・文化の場をどのように作っていくか。この問題は学校行政の中だけではなくて、健康づくりとか地域の文化活動サークルとの関係にもかかわると思いますので、部活動だけ解決すればいいかというと、それは違うんじゃないかと考えています。もう少し、その多様なニーズを反映して参画できる形をどう作っていくかとなった時、健康福祉部や教育委員会と受け皿をどういう形で作っていくのか、団体側も会員は確保したいわけですから、そこをうまくマッチングさせてやることを考えていく必要があると思います。

あと、委員から照明の話がありました。中学校のグラウンド照明は今無いということで、中学校整備が進めば解決すると思うんですけど、それまで待たせるのかとかという話もあるのかもしれない。こういったニーズがあるのかは、よく検討させていただいて、やらせていただきたいと思います。

●委員

ぽっぽの湯運営協議会として委託を受けて 4 年目になっています。市当局、藤島庁舎、地元活動センターの支援をいただきまして、入場者は当初 11 万 7,000 人の目標でしたがそれをはるかに超え、5 年度実績が 3 年度から 150%の伸びで経過しています。

去年、2 号源泉のスケール除去工事を行い、毎分 30 リットルが 120 リットルとなり大変湯量が増えて、今は露天風呂等をかけ流しで行っております。そのおかげで燃料費、石油の使用量が大きく減り、その分を他の活動にまわしています。それが経年により減らないように、また維持できるように、つきましては経費の削減になると思いますのでよろしくお願いします。

また、利用客の増加に向け、四季に応じてイベントを行っております。いろいろな地区・地域の皆様とともに、お客様から喜んで利用していただきますように、フレイル事業を通していろんな健康に貢献していきたいと思っています。

売店では、地域の皆さんの農産物等の販売をしています。売り上げは年間 2,100 万円を計上しております。入浴収入は 5,500 万円、また食堂等も田和楽さんのおかげで繁盛しています。わざわざ食事に来るお客様もいますし、入浴にもそれなりの楽しみを持ってくるお客さんがいます。

今年のお盆の 9 日間の入浴者数が平均 769 人/1 日ということでした。去年よりも 20%増して経過していますし、17 日の赤川花火の時は、5 時になったらパタッと人が止まりましたがそれでも去年より 130%と増加しました。ロビーでは BS 朝日の放送を順次流しました。次の日、日曜日には夕方 5 時から 2 回流したところ、大変好評でございました。テレビの鶴岡市のアピールも大変よかったですし、お盆の期間中はプロジェクターを通して PR ビデオを流しています。お盆で帰省の方が加茂水族館や羽黒山の PR ビデオを見て、良いものがあるんだのと眺めておりました。

私たち従業員一同、施設運営に関して頑張っております。また、温泉振興会、地域活動センター、直売所組合、業者会の方々から協力を得て運営を行っています。施設は 24 年を経過して経年劣化が目立っております。来年は 25 周年で何とかきれいなお風呂でお迎えしたいと思いますので、この施設、設備の整備をよろしくお願いしたいと思います。

半径 5 キロ以内に田田と町湯があります。大変な激戦区ですので、失くさないようよろしくお願いしたいと思います。

■成田支所長

施設の整備について、庁舎はまちづくり未来基金という基金を使っていて、年 1,000 万の修繕費を持っています。昨年度の実績、庁舎が約 50 万、各地区の活動センターが 250 万、東田川文化記念館が 200 万、保育園と児童館が約 200 万、藤島エコ有機センターという堆肥センターとエコタウンセンターという農業関連の施設に 120 万、公園に 100 万で 1,000 万を各施設に使っている状況です。

しかも、活動センターでエアコンが壊れて夏場使えないとか、くりくり保育園のバスが壊れて送迎ができないとかの緊急的な対応をしているもので、大きい施設の老朽化に対応でき

ない状況です。ある程度、長期的な施設の更新については予算要求をしておりますので、予算取れるように頑張ります。

■皆川市長

成田支所長が大変な中やりくりしていることは、今よくわかりました。

各地域の温泉施設は非常に頑張っていると思います。ぽっぽの湯も非常に工夫されて、赤川花火の話もありましたけれども、託児のことや食堂などもやっていただいていると思っています。

広域合併して、こういったものまで縮小廃止に向かっていくとなりますと、この地域でここを拠点として地域づくりをやろうとしていることへの悪影響というのが非常に大きいのではないかと考えています。今、ゆぽかは株式会社の形態で、長沼温泉と櫛引のゆ～townは、地域密着型組織で、そして朝日は市の温泉だったものが普通財産に変わり、どうしても地元で維持していきたいという声もあり、新しい運営主体が運営しています。各地域への投資を縮小する中の一つに、こういった温泉事業などもあったのではないかと考えられますけれども、ぜひ工夫して、どうやれば維持できるか、にぎわいをつくれるかを。特にぽっぽの湯は、観光というよりは、健康づくりと、高齢者の介護度が高まっていかないフレイル予防の考え方も取り入れた温泉ということで、そういうことを今実践していると思います。

これからは健康のいろんな政策で地域包括ケアという、住み慣れた地域で健康で長生きして暮らせる拠点づくりが、求められています。長沼地域活動センターもありますけれども、住民の方々がこの温泉施設と一緒に健康づくり、直売所とかも含めて生きがいと健康づくりになるものですので、その観点でこの施設をどういった規模で更新ができるかというようなことも、庁舎中心に、あと健康行政との関係でもこの施設は位置付けておりますので、施設整備のねらいを整理して、老朽化をすぐ更新できなくてご迷惑をかけている部分があると思いますけれども、しっかり我々が道筋をつけていかなきゃいけないことだと思いますので、頑張ってくださいに感謝申し上げます。我々も頑張っていきたいと思っています。

●委員

こりす保育園を利用しています。子供たちの保育室にエアコンを設置していただきました。感染症とかあった場合にも、エアコンのついた部屋で子供たちが寝れるようになり、快適に過ごさせていただいているので、ありがたいと思っています。

その設備を大事に、園の生活を過ごしていけたらと思います。

●委員

藤島児童館のことで、今後どうなるのか大変心配しています。中町町内会の会長をしていた当時、運営協議会の会長としてずっと状況を見て参りました。

築40年以上経過、雨漏り、児童はどんどん増えていく、利用児童が増えていく。これからの文厚エリアの整備の中で考えていきたいと思います。これが出来るまで何年か

かるんですか。3年4年でできないでしょう。それまで我慢しろというのは、今の状況から考えると厳しいと考えます。事故とかが起きた時は誰の責任になるかという議論をして来ました。児童館のこれからの整備については子育て支援事業ということで取り組んでいますが、暑さ対策のカーテンを付けたことが対策だということでは抜本的な対策になっていないので、これからどうするかお聞きしたいと思います。

■皆川市長

児童館の形態になっているのは、旧鶴岡市と旧藤島町で、旧町村では無いわけです。まず旧藤島町の児童館が非常に老朽化しているということですので、これは中学校改築、また小学校の整備と合わせた中で児童館の位置付けをしっかりと整理していきます。

朝陽五小では、五つの支援単位の学童、他の児童クラブ学童保育が、非常に古い建物に入って活動しておりました。私もコロナのときに見に行ったんですけど、こんな狭いところでやっているんだなと思いました。それがこの度、学校と一体となって非常に立派な施設になりました。

ですので、まず中学校改築、小学校の改築と合わせた整備ということと、着実にやるということと、もう一つは当面なかなか大変だということです。正直言うと本当に大変なところがいろいろあるんですが、どこが大変なのかをよく出してもらい、急がなければいけないところは応急的対応もしながら、この文厚エリアの整備の中できちんとしたものに仕上げていくということで取り組んでいきます。

●委員

最終的には、文厚エリア、いわゆる中学校の改築に合わせて児童館も考えていくことはわかります。ただ、それまで放置したままで良いのか。児童数を制限せざるを得ない状況にしてはいけないと思っています。例えば、暫定的にプレハブを作って利用スペースを増やして対応する。これは何年も前からそういう話が出ていて今まで来たわけですので、新しい児童館ができるまでの間どうするのかを真剣に考えてもらいたいと思います。

■成田支所長

一番課題になっているのは、学童の登録児童に対して狭いことだと思います。今年は旧老人福祉センターのスペースを借りて、高学年の子供たちを保育することで対応をしています。児童館が手狭なことは庁舎でも理解しておりますが、来年度の方針等を所管である子育て推進課と詰めきれていません。文厚エリアができるまで、もうしばらく時間がかかるということでもありますから、とりあえず狭さを解消する手だてを所管課と詰めていきたいと思っています。

●委員

未来事業の一覧表を見ますと、いろいろなところに関わらせていただいていると思っております。農業、庄農うどん、鶴岡ごはん日本一も伝統芸能もそうだし、ぽっぽの湯の食堂も

携わせていただいております。この会では本当に好き勝手なことしか言っていませんけれども心の中では感謝しかないので今後ともどうぞよろしくお願いします。

学童の話で、たわらや2階のエコタウンセンターの稼働率が相当低いと思って見えています。十分な広さもあるし、エアコンも今年度の予算がついて修繕が入る見込みと聞いているのでぜひ活用したら良いと思っていました。あるものを有効的に使っていくのはとても大事なことだと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

また、普段この会議の進行とか、議論の中身を見ていろいろ感じておりましたけれども、本日市長から来ていただいてとても活発なご意見が飛び交っていますし、有意義な会だったと感じております。市長にはぜひ次もこの会議に来ていただきたいと要望を申し上げて、話を閉じさせていただきます。

■皆川市長

こりす保育園にエアコンが入ったことについては、低年齢児の受け皿確保に取り組む保育園のエアコン整備を進めたんです。ですから、目的を持って取り組むところに、優先的に施設整備等を行っていることがあります。

学童も現状の施設では難しいとした時に、今老人福祉センターを使っているということですがけれども、必要なことはやらないといけません。他の施設が活用できないとか、あるいは同じように手狭になり増築したり、プレハブで比較的安価にできる方式を入れた例もあるので、実態に合わせて適用できる方式でしっかりやりますのでよろしくお願いします。

●委員

空いている施設の活用も一つの考え方だと思いますが、そうすると職員の採用が大変になるんです。指定管理者のいなば学園と話をして、責任者の館長の話をよく聞いて、同じ敷地の中にあれば良いということなので、そういう考え方を基本に話をしてもらいたい。

■酒井庄内農業高校長

夏場に子供たちが行く場がない。これは中学校が開放する前に庄農を開放して、図書室を開放してしまえば、学校の発信にもなる。

学童の話も、実現は難しいかもしれませんが、本校に古いのですが同窓会館があります。そこを例えば市からエアコンを入れてもらう代わりに使ってくださいとか、お金をかけなくてはいけないこととか、知恵でいけることとか様々あるということがすごく参考になりました。

庄農として出来ることを全力でお答えしていきたいと思ひますし、保護者の方にも地域の方にもぜひ学校に足をお運びいただいて、お茶でも召し上がっていただければと思います。

■皆川市長

酒井先生のおっしゃったことは非常に重要で、市役所の組織も大きいので意思決定は時間がかかるんですね。こういうことこそ、庁舎ならではのことだと思うのです。その地域

の高校と連携して、すぐにでも出来そうなこと、お互いにメリットがあるようなことをやるのが地域庁舎の醍醐味なんじゃないかと思います。支所長の決断一つでもいろいろ進むはずですから、よろしくお願いします。

●萬年会長

今日は市長からおいでいただき、活発な貴重なご意見を皆さんからいただくことができました。それで藤島地域の現状と課題を再確認することができたのではないかと思います。いろいろな課題がありますけれども、課題解決のために、これからも皆様とともに取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。

最後に(2)のその他の部分で何かございますか。無ければ協議を終了いたします。議事の進行、ご協力ありがとうございました。

■総務企画課長

萬年会長からは、スムーズな進行、また委員の皆様からは、貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。

5.その他について、事務局から特にございませんけども、委員の皆さんから、何かございますでしょうか。

■皆川市長

今日、農作物の被害に関する連絡会議がありました。農地や揚水機場の対策は進めていますが、さらに必要なことについてはしっかり現地を確認、検討し進めて参ります。

あと、災害対策というのは、農業のこともありますし、インフラ、市道とか林道、あと床上床下浸水の住家の支援措置と、いろんな分野ごとに対策が必要になっています。毎週金曜日に進捗を確認する会議を開いており、具体的には例えば床上浸水の方々と個別に連絡を取っていて、受けられる支援の内容を概ねの方が理解している状況になっております。

床上床下浸水は110戸ぐらいだったんですけど、それぞれの方が受けられる支援は必ず受けられるように、ちゃんと進めておりますので、その進捗状況を確認して、しっかり復旧を進めて参りますので、またその情報については市のホームページなどで皆様方に広くわかるようにして参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(終了)